

令和 8 年度

## 十勝管内教育研究所連絡協議会総会

【総会】 進行：1～4及び11 事務局（十勝教育研究所 佐藤主任）

- 1 開会の言葉
- 2 市町村教育研究所所長 自己紹介
- 3 十勝教育研究所所員 自己紹介
- 4 議長選出
- 5 役員選出
- 6 連絡協議会会長挨拶
- 7 報告事項
  - (1) 令和 7 年度 十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究事業報告
  - (2) 令和 7 年度 十勝管内教育研究所所員研修会事業報告
  - (3) 令和 7 年度 会計決算・監査報告
  - (4) その他
- 8 協議事項
  - (1) 令和 8 年度 十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究事業計画（案）について
  - (2) 令和 8 年度 十勝管内教育研究所所員研修会実施要項（案）について
  - (3) 令和 8 年度 十勝管内教育研究所連絡協議会予算（案）について
  - (4) その他
- 9 その他
  - (1) 管内所員研における部会の発表テーマについて
  - (2) 令和 9 年度以降の管内所員研発表割当について
  - (3) 十勝管内教育研究所連絡協議会役員・所員研修会の開催地（輪番）について
  - (4) その他
- 10 議長退任
- 11 連絡協議会副会長挨拶
- 12 閉会の言葉

【所長研修会】 進行：副会長（十勝教育研究所 天野副所長）

- 1 令和 8 年度市町村教育研究所の事業について（交流・協議）
- 2 その他

日時 令和 8 年 5 月 28 日（木）14 時～

場所 十勝教育研修センター

令和8年度 十勝管内教育研究所連絡協議会

◆ 十勝管内教育研究所一覧

市町村名	所長名	所属所	事務局等 (連絡窓口)	連絡先
音 更	日根野郁代	緑陽台小	荒木 成宜	柳町小
士 幌	舘 英樹	中士幌小	山根 由之	中士幌小
上士幌	坂下 亮宏	上士幌小	佐藤 英知	上士幌小
鹿 追	増田 覚	瓜幕小	渡邊 慎二	瓜幕小
新 得	古村 俊大	屈足中	三瓶真智香	屈足南小
清 水	小副川 浩	御影小	伊藤 健	御影小
芽 室	菅原 晴彦	芽室西小	野村 真実	芽室西小
中札内	田村 浩文	上札内小	鈴木めぐみ	中札内小
更 別	長澤 啓二	上更別小	山野 圭	更別小
大 樹	大石 浩之	大樹中	内山 英俊	大樹小
広 尾	和嶋 康彦	豊似小	三木 俊治	広尾小
幕 別	島田 諭	忠類中	斉藤 雅彦	札内北小
池 田	藤井 将弘	池田小	菅原 弘貴	池田小
豊 頃	藤川 淳	大津小	中野 真一	豊頃小
浦 幌	阿部 英一	上浦幌学園	山田 征洋	上浦幌学園
本 別	宮崎 哲	勇足小	宮崎 哲	勇足小
足 寄	喜多 徹	螺湾小	松原 宏一	螺湾小
陸 別	佐藤 貴光	陸別小	後藤 昭史	陸別小
帯 広	傳法谷 肇	帯広市教育研究所	傳法谷 肇	帯広市教育研究所
十 勝	横山 利幸	十勝教育研究所	佐藤 悠樹	十勝教育研究所

◆ 令和8年度 十勝管内教育研究所連絡協議会役員 (案)

役員	氏名	所属	備考
会 長	横山 利幸	十勝教育研究所	
副会長	傳法谷 肇	帯広市教育研究所	
	島田 諭	幕別町教育研究所	
	天野 健治	十勝教育研究所	
幹 事	宮崎 哲	本別町総合教育研究所	本別
	田村 浩文	中札内村教育研究所	中札内
	増田 覚	鹿追町立教育研究所	鹿追
	藤井 将弘	池田町教育研究所	池田
	坂下 亮宏	上士幌町教育研究所	上士幌
会計監査	日根野郁代	音更町教育研究所	
事務局	佐藤 悠樹	十勝教育研究所	

## ■ 報告事項

(1) 令和7年度 十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究事業報告

○ 共同研究 授業実践グループ

研究1年次グループ

役職	氏名	所属研究所	所属学校
推進幹事	永山 凜	陸別町教育研究所	陸別中学校
推進副幹事	土橋 真理	中札内村教育研究所	中札内小学校
授業者	田村 陽和	大樹町教育研究所	大樹中学校
研究員	戸川 結	音更町教育研究所	緑南中学校
	加藤 心	士幌町教育研究所	士幌町中央中学校
	長谷川知英	上士幌町教育研究所	上士幌小学校
	梅原 翔太	鹿追町立教育研究所	鹿追中学校
	朝日 誠	新得町教育研究所	屈足中学校
	山内 優萌	清水町教育研究所	清水中学校
	渡邊 優美	芽室町教育研究所	芽室西中学校
	原田 憲未	更別村教育研究所	上更別小学校
	窪 駿一	広尾町教育研究所	広尾中学校
	遠藤 宏一	幕別町教育研究所	札内中学校
	小山内美咲	池田町教育研究所	池田中学校
	小野 泰雅	豊頃町教育研究所	豊頃小学校
	佐藤 法士	浦幌町教育研究所	浦幌中学校
	下前 滋史	本別町総合教育研究所	勇足中学校
	岸山 知歩	足寄町生涯学習研究所	足寄小学校
木下ことみ	帯広市教育研究所	帯広第五中学校	

○ 業務日誌

6月 3日 (火)	第1回共同研究員会議	研修センター
6月19日 (木)	第2回共同研究員会議 (幹事・副幹事・授業者)	オンライン
7月 8日 (火)	第3回共同研究員会議	研修センター
8月21日 (木)	第4回共同研究員会議	研修センター
10月 9日 (木)	授業実践1	田村教諭 (大樹中)
	第5回共同研究員会議	大樹中学校視聴覚室
10月23日 (木)	授業実践2	田村教諭 (大樹中)
	第6回共同研究員会議	大樹中学校視聴覚室
10月28日 (火)	授業実践3	田村教諭 (大樹中)
	第7回共同研究員会議	大樹中学校美術室
11月 6日 (木)	第8回共同研究員会議	オンライン
1月15日 (木)	第9回共同研究員会議 (幹事・副幹事・授業者)	オンライン
1月27日 (火)	第10回共同研究員会議 (幹事・副幹事・授業者)	オンライン
2月 3日 (火)	十勝教育研究所研究発表大会	オンライン

○ 令和7年度 十勝教育研究所研究発表大会

- 期 日 令和8年2月3日（火）
- 実施方法 Zoomによるオンライン開催
- 会 場 配信側：十勝教育研修センター、受信側：各学校等
- 参加者 150名
- 研究発表

発表1 十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究（1/2年次）

「自ら学び続ける子どもを育む研究」  
～単元デザインの工夫と学びの自己調整を通して～

発表2 十勝教育研究所協力員研究（2/2年次）

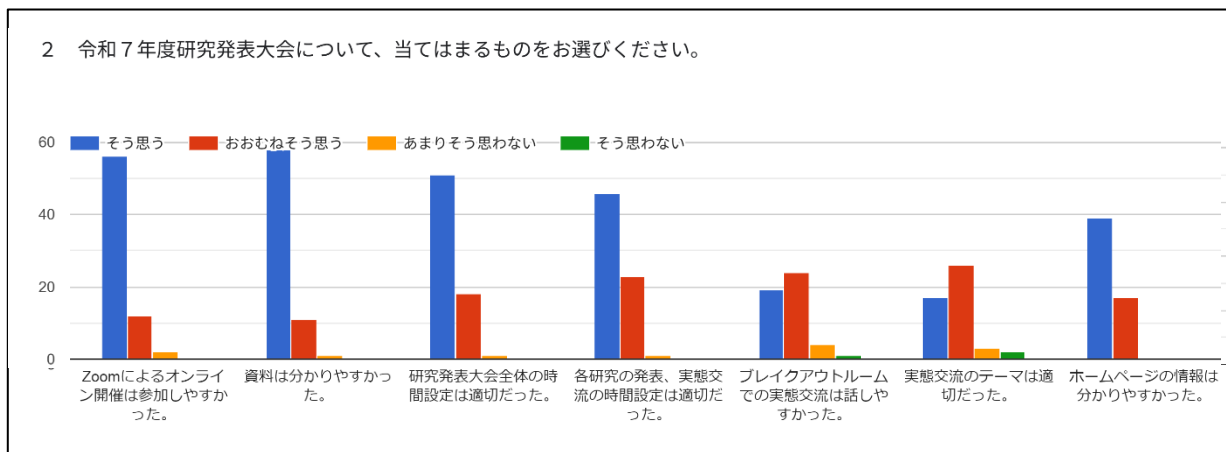
「他者を尊重し、責任をもって行動する子どもを育む研究」  
～教科等横断的な視点に立った授業デザインと意思決定につながる学習展開の工夫を通して～

■ 参加者交流

- 共同研究（中学校第2学年社会科）に関わる実態交流
- 協力員研究（特別活動／小学校第5学年・中学校第2学年）に関わる実態交流

■ 反省

2 令和7年度研究発表大会について、当てはまるものをお選びください。



- ・ Zoomによるオンライン開催は、天候に左右されず、大会の時間を十分に確保できるなどのメリットがある。参加方法は昨年度に引き続き「実態交流に参加」と「視聴のみ」の2つにした。可能な限り実態交流に参加していただくよう促す文章を申込フォームに追加した結果、昨年度よりも実態交流への参加者が増加した。但し、当日は参加申込をしていない方の参加もあった。
- ・ 限られた時間で、理論提案から実態交流までねらいに応じた内容にすることができた。共同研は同校種、協力員研は異校種でグループを編成し、互いの実践について交流した。事後アンケートで大変ご好評をいただいたことから、参加者にとって有意義な研究発表大会であったと思われる。
- ・ 各市町村教育研究所等の協力により、150名の参加者があった。今後、研究所員以外の参加者がより増えるような呼び掛けも必要である。

(2) 令和7年度十勝管内教育研究所所員研修会事業報告

1 趣 旨	管内の各教育研究所の今日的な課題と役割を明らかにし、併せて相互の研究成果の交流を図り、研究所員としての力量を高める。						
2 主 催	十勝管内教育研究所連絡協議会						
3 主 管	陸別町教育研究所 十勝教育研究所						
4 後 援	北海道教育庁十勝教育局 陸別町教育委員会						
5 期 日	令和7年(2025年)7月3日(木)						
6 会 場	陸別町役場 タウンホール 陸別町保健福祉センター ※完全参集型による開催						
7 日 程	12:00	12:30	12:50	14:00	14:10	15:20	15:30 15:40
	受付	開 会 式	講 演 会	移 動	部 会 (A・B)	移 動	閉 会 式
8 講 演	演題 「地域振興 町づくり」 講師 陸別町長 本田 学 氏						
9 部 会	① A部会(発表:上士幌町教育研究所・更別村教育研究所) ② B部会(発表:豊頃町教育研究所・帯広市教育研究所)						
10 参加費	各市町村研究所 3,000円						
11 参加者数	129名						

(3) 令和7年度 会計決算・監査報告

○ 令和7年度 十勝管内教育研究所連絡協議会 決算

① 収入の部

項 目	令和7年度予算額	決算額	差引増減	摘 要
繰越金	144,729	144,729	0	令和6年度繰越金
負担金	40,000	40,000	0	管内教育研究所負担金 (@2,000×20)
雑収入	0	43,458	43,458	管内所員研修会残金繰入43,136円 決算利息322円
合 計	184,729	228,187	43,458	

② 支出の部

項 目	令和7年度予算額	決算額	差引増減	摘 要
通信費	15,000	5,000	△ 10,000	切手
消耗品費	40,000	41,600	1,600	ICレコーダー
研修会費	115,000	0	△ 115,000	
予備費	14,729	0	△ 14,729	
合 計	184,729	46,600	△ 138,129	

③ 収支差引      ¥228,187   －  ¥46,600      ＝  ¥181,587  
                  (収入額)           (支出額)           (残 金)

④ 次年度繰越金      ¥181,587


○ 令和7年度 十勝管内教育研究所連絡協議会 会計監査報告

## 会計監査報告書

令和7年度十勝管内教育研究所連絡協議会収支決算について、収支表・領収書及び預金通帳を監査の結果、適正な執行であることを認めたので報告します。

令和8年3月19日

十勝管内教育研究所連絡協議会 会計監査

音更町教育研究所      笠原 聡 

## ■ 協議事項

(1) 令和8年度 十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究事業計画 (案)

① 研究主題

自ら学び続ける子どもを育む研究 (2 / 2年次)

～問いを生かす単元デザインと、振り返りから次を見通す学びの実現～

② 主題設定の理由

学習指導要領では、子どもの学習意欲の向上を重視しており、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげることが重要とされている。そして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるためには、学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを推進することが求められている。

また、「令和の日本型学校教育」の中央教育審議会答申においては、ICT等を活用しつつカリキュラム・マネジメントを充実させ、授業改善を行う中で、学習の進め方（学習計画、学習方法、自己評価等）を自ら調整する力を身に付けさせることが必要であるとされている。

そこで、2年次においては、問いを生かす単元デザインを作成することで内発的な動機に基づく主体性を喚起することと、振り返りと見通しが相互に関連した活動を行うことによって自身の学びを主体的に調整することが重要であるとする。

### ③ 研究の仮説と内容、構造図

**研究の仮説**  
 単元計画において、教師が身に付けさせたい資質・能力を踏まえながら問いを生かす単元デザインを構築し、加えて、子どもが振り返りと見通しを相互に関連付けた学びの主体的な調整を行うことによって、自ら学び続ける子どもを育むことができるだろう。

- 研究の内容**
- (1) 問いを生かす単元デザインの実現
  - (2) 振り返りから次を見通す学びの実現



#### ※ 旅費の負担について

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町村教育研究所負担分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回共同研究員会議（全体会議）</li> <li>・ 第3回共同研究員会議（全体会議）</li> <li>・ 第5回共同研究員会議（授業実践1・全体会議）</li> <li>・ 第6回共同研究員会議（授業実践2・全体会議）</li> <li>・ 第7回共同研究員会議（授業実践3・全体会議）</li> <li>・ 研究発表大会</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 十勝教育研究所負担分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2回共同研究員会議（推進幹事・副幹事・授業者会議）</li> <li>・ 第4回共同研究員会議（全体会議）</li> <li>・ 第8回共同研究員会議（全体会議）</li> <li>・ 第9回共同研究員会議（推進幹事・副幹事・授業者会議）</li> <li>・ 第10回共同研究員会議（推進幹事・副幹事・授業者会議）</li> </ul>

(2) 令和8年度 十勝管内教育研究所所員研修会実施要項 (案)

令和8年度十勝管内教育研究所所員研修会						
1 趣 旨	管内の各教育研究所の今日的な課題と役割を明らかにし、併せて相互の研究成果の交流を図り、研究所員としての力量を高める。					
2 主 催	十勝管内教育研究所連絡協議会					
3 主 管	芽室町教育研究所 十勝教育研究所					
4 後 援	北海道教育庁十勝教育局 芽室町教育委員会					
5 期 日	令和8年(2026年)7月2日(木)					
6 会 場	芽室町中央公民館 ※完全参加型による開催					
7 日 程	12:00	12:20	12:40	14:20	14:30	15:30 15:40 15:45
	受付	開 会 式	講 演 会	移 動	部 会 (A部会・B部会)	移 動 閉 会 式
8 講 演	演題 「えっ！DXはもう古い？AXの時代へ ～早すぎる時代の変化に対応できる学校とは 中教審&原点から考える～」 講師 認定NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム理事長 一般社団法人北海道開発技術センター地域政策研究所参事 新保 元康 氏					
9 部 会	① A部会 (発表：新得町教育研究所・広尾町教育研究所) ② B部会 (発表：池田町教育研究所・足寄町生涯学習研究所)					
10 参加費	各市町村研究所 3,000円					

(3) 令和8年度 十勝管内教育研究所連絡協議会 予算 (案)

① 収入の部

項 目	令和8年度予算額	令和7年度予算額	前年度比	摘 要
繰 越 金	181,587	144,729	36,858	
負 担 金	40,000	40,000	0	管内教育研究所負担金 (@2,000×20)
雑 収 入	0	0	0	預金利息等
合 計	221,587	184,729	36,858	

② 支出の部

項 目	令和8年度予算額	令和7年度予算額	前年度比	摘 要
通 信 費	15,000	15,000	0	切手 等
消 耗 品 費	60,000	40,000	20,000	コピー用紙・インク 等
研 修 会 費	120,000	115,000	5,000	管内所員研修会への補助 等
予 備 費	26,587	14,729	11,858	
合 計	221,587	184,729	36,858	

■ その他

(1)管内所員研における部会の発表テーマについて

各研究所が取り組んでいる調査研究内容から決定し、期日までに主管（主催者）へ報告する。

(2)令和9年度以降の管内所員研発表割当について（令和12年度について確認）

方面 学校数	市町村 名	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年			
		2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030			
北部 22	音更	道東地区 所員研修会を兼ねる	北海道教育 研究所連盟研究発表大会を兼ねる	学提言			道東地区 所員研修会を兼ねる		発表				
	士幌							主管		発表			
	上士幌				発表								
西部 23	鹿追			心提言							発表		
	新得							発表					
	清水									発表			
	芽室								主管			発表	
南部 11	中札内				主管							発表	
	更別					発表							発表
	大樹									発表			
	広尾								発表				
東部 20	幕別				学提言								
	池田					発表				発表			
	豊頃			発表									
	浦幌						発表			主管			
東北部 12	本別							発表					
	足寄					発表							
	陸別		心提言	主管					発表				
帯広 39					発表				主管				
十勝		主管	主管				主管						
主管・(主催)		十勝	(道研)	南部	東北部	西部	十勝	北部	帯広	東部			

※ 令和11年度までの割当は前年度確認済み。令和12年度について確認する。

※ 部会の司会については、主管する研究所で検討し、その都度依頼する。

(3) 十勝管内教育研究所連絡協議会役員・所員研修会の開催地（輪番）について

役員		担当研究所長								
会長		十勝教育研究所長								
副会長		帯広市教育研究所長								
		幕別町教育研究所長								
		十勝教育研究所副所長								
事務局長		十勝教育研究所								
会計監査		音更町教育研究所長								
		4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
幹事	東北部	足寄	本別	陸別	足寄	本別	陸別	足寄	本別	陸別
	南部	更別	大樹	更別	広尾	中札内	大樹	更別	広尾	中札内
	西部	新得	清水	新得	芽室	鹿追	清水	新得	芽室	鹿追
	東部	豊頃	池田	浦幌	豊頃	池田	浦幌	豊頃	池田	浦幌
	北部	上士幌	士幌	上士幌	士幌	上士幌	士幌	上士幌	士幌	上士幌
主幹方面		兼 道東研	兼 全道研	南部	東北部	西部	兼 道東研	北部	帯広	東部
管内研		十勝	十勝	中札内	陸別	芽室	十勝	士幌	帯広	浦幌
道東研		十勝	オホー ツク	釧路	根室	オホー ツク	十勝	釧路	根室	オホー ツク
道研連大会		札幌	十勝 帯広 幕別	オホー ツク	胆振	釧路	石狩	渡島	留萌	日高

※ 十勝管内教育研究所所員研修会主管方面について

- 帯広→東部→南部→東北部→西部→北部とする。
- 道東研、道研連大会が十勝で開催される場合にはその大会と兼ねる。

(資料) 令和8年度十勝教育研究所

職名	氏名	所属
所長	横山 利幸	専任
副所長	天野 健治	幕別町立札内北小学校
主任	佐藤 悠樹	音更町立音更中学校
副主任	中村 俊太	音更町立鈴蘭小学校
所員	千葉 直哉	音更町立共栄中学校
所員	宮崎 広樹	幕別町立札内東中学校
所員	斎藤ありさ	幕別町立まくべつ学園
書記	清水 悦子	専任

## 十勝管内教育研究所連絡協議会規約

(名 称)

第1条 本会は、十勝管内教育研究所連絡協議会という。

(組 織)

第2条 本会は、十勝における教育研究所並びにこれに準ずる機関を持って構成する。

(目 的)

第3条 本会は、加盟機関相互の連携を密にして、教育研究の充実を図り、もって十勝教育の振興に寄与する。

(事 業)

第4条 本会は、前条の目的達成するため下記の事業を行う。

- (1) 教育研究所員研究発表会 参加協力
- (2) 共同の研究
- (3) 教育研究に必要な資料の収集及び交換
- (4) 教育研究活動の理解普及
- (5) その他必要な事業

(機 関)

第5条 本会に下記の機関を置く。

- (1) 総 会
- (2) 幹事会

(総 会)

第6条 総会は、関係機関の代表をもって構成する。

2 総会は、会長の招集により年一回定期に開催し、下記の事項を審議する。

ただし、必要に応じて臨時に開催することができる。

- (1) 規約改正
- (2) 役員を選出
- (3) その他本会の事業に関する事項

(幹事会)

第7条 幹事会は、正副会長・幹事をもって構成する。

2 幹事会は、会長が招集し司会する。

3 幹事会は、総会の決議事項の執行に当たる。緊急事項が生じた場合はこれを処理し総会の承認を求める。

(役 員)

第8条 本会に下記の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 3名
- (3) 幹事 若干名
- (4) 会計監査 若干名
- (5) 事務局長 1名

2 役員任期は1年とし、再任を妨げない。

(事務局)

第9条 本会の事務局は、十勝教育研究所に置く。

(経 費)

第10条 本会の経費は、総会の審議で決める。

附 則

この規約は、昭和51年8月23日より施行する。

この規約は、平成20年5月20日より施行する。

この規約は、令和4年5月31日より施行する。